

## 【沖縄県の水がめ、福地ダム】

沖縄県 東村立東中学校 二年 比嘉<sup>ひが</sup> 恭平<sup>きょうへい</sup>

僕が住んでいる東村のキャッチフレーズは「花と水とパインの村」です。このキャッチフレーズにもあるように、沖縄県の水がめである福地ダムは僕にとつてとても大切な場所です。僕はこの福地ダムのことを調べるうちに、生まれ育ってきた東村のことを誇りに思うと同時に、とても好きになりました。そして、夏になると必ず東の小中学生は、海だけではなく、川に遊びに行きます。川でエビ取りをし、家に持って帰って家族で食べます。このようにすることができるのも、東村に水が豊富にあるからだと考えます。

僕は、この村にある福地ダムのことを詳しくは、知りませんでした。この作文を書くことをきっかけに調べることができました。福地ダムは、沖縄県本島北部にあり、本島内で使われている水の多くは、ここから送られ、沖縄本島の「水がめ」となっています。それは、小学校の頃からずっとあたり前のことだったので、あまりすごいとは思っていませんでした。しかし、福地ダムは、戦後の復興に伴い本島北部につくられた県内最大規模のダムであり、国が管理するダムの中核であることを知りました。毎年、夏になると福地ダムでは、ダムまつりがあります。ダムを見学するための遊覧船や、ダムが滑り台になって遊ぶ場所ができます。その場所が私達の暮らしをこんな風に支えていることや、洪水などの災害からも守っていることは、すばらしいことです。

福地ダムの建設は、沖縄戦のあと、米軍の兵隊によって作られたことも僕が驚いたことの一つです。その頃は、ちゃんとした技術もなく、本当に苦労したと思います。沖縄の気候は、亜熱帯性気候で、降水量は本土より多いからです。しかし、三年前などはダムに水が少なくなっていることを連日、報道されていたことを僕は覚えていません。沖縄には、大きな山や大きな河がないため、雨が降らない日が続くと、水不足に悩まされてきたといえます。そ

のために水を大切にすることや、水を貯めておくためのダムが必要になるのです。あたり前に蛇口をひねれば出てくる水はあたり前にあるものではないこと、限られた資源であることをあらためて気づかされました。

ダムはいくつもの役割があります。ただ雨が降ったからといって雨水を貯めるだけではなく、ダムに流れ込む水を一時的に貯め、安全な水量だけ下流に流すこともしています。東村の豊かな自然の環境を福地ダムが守ってくれているのだと僕は理解しています。もちろん福地ダムだけでなく、沖縄にある全部のダムが県民の生活を支えています。

僕が生まれ住んでいるこの地域の自然のことを「やんばるの森」と呼んでいます。水にとつて森はとても大切な宝箱だと思います。この森も沖縄の水がめとなる福地ダムをはじめ、北部にあるダムの水源地となっています。この福地ダムは水だけでなく、福地発電所として九〇〇キロワットの電力を発生させています。水だけではなく、電力としても使われていることに頼もしく思います。今はその電力はダムの管理のため使われていますが、僕が大人になる頃には、家庭用にも使われているといいなという希望があります。

僕は今回、福地ダムのことを調べて考えたことは、この北部に生まれ育つてよかったということです。沖縄県民の生活を支えている身近にある福地ダムを通し、やんばるの森のことを知り、大切にしたいという気持ちが強くなりました。これからも、自分のふるさとの東村の福地ダムを愛し続けていきたいと思いました。